



「喜びの言葉」を呼び掛ける全校児童と江刈中1年生
円内は式典の後、校庭の周囲に記念樹を植える児童

木も心も守り育てた江刈小 学校林の設置100周年を祝う

江刈小学校（瀬川都代校長・児童43人）は4月30日、同校体育館で学校林設置100周年記念式典を行い、児童や父母、地区民ら約200人が1世紀にわたる学校林活動を祝いました。

児童は、植樹や育林作業などを通じて自然を学び、大切に作る心をはぐくんできました。式典では、学校林について詠んだ俳句を一人ひとり披露しました。

同校は、16年度全日本学校関係緑化コンクール（日本緑化推進機構主催）学校林等活動の部で入選し、6月5日茨城県で開かれる全国育樹祭で表彰されます。全国規模での表彰は二度目で、100周年の記念すべき年に二重の喜びとなりました。

生活改善グループも初体験 盛岡の中学生に料理を指導

葛巻町生活改善グループ連絡研究会（荒谷セツ会長）は5月13日、町総合センターで盛岡市の城西中学校の2年生133人に郷土料理の作り方を指導しました。

本町で酪農体験などの宿泊研修を毎年行っている同校は、今年初めて郷土料理の体験学習を取り入れました。生徒は、同会の会員21人からひつつみやへっちょこだんごなどの作り方を熱心に教わっていました。

荒谷会長は「体験学習の受け入れは初めてですが、今の子どもたちに食の大切さや葛巻のことを知ってもらえたらいいですね」と話していました。

今後、食を通じた活動でグリーンツーリズムへの発展も期待されます。



ひつつみのこね方を教える生活改善グループ会員



折りたたみ自転車に乗って講演活動を続けている松本英揮さん㊦のスライドショー

かなり危ない?!地球の環境 スライドでエコ生活を提言

環境をテーマに国内外で講演活動を続けている松本英揮さん(44歳・宮崎県在住)の「地球のスライドショー」は、5月17日総合センターで開かれました。

松本さんは、20歳のころからブタ袋を担いで世界70カ国以上を巡り、各国の自然や環境に対する取り組みの写真を撮り続けてきました。講演会では150枚以上のスライド写真を映しながら、世界各地の現状や将来の姿を伝えました。

講演会は、正式名称を「くずまき環境パートナーシップなあす」とした地球温暖化対策地域協議会（向川原孝代表）が開いたもので、参加者は「地球の現実」を見せられ、環境保全の大切さを強く感じていました。